FUJIFILM

準備編

基本編

応用編

KLASSE

35mm FULL AUTOMATIC CAMERA
SUPER EBC FUJINON f=38mm 1:2.6

使用説明書

ご使用前に必ずお読みください。

J

特　長

1. スーパーEBC FUJINONレンズ　1：2.6　f＝38mmにより、近接（0.4m）から無限遠までクリアでシャープな高画質を実現します。
2. カメラ操作を気にすることなく撮影ができるプログラムAE、臨場感を作り出す絞り優先AEの高性能露出制御機構を搭載しています。
3. 多彩な光線状況に対応できるオートエクスポージャーブラケティング（AEB）、露出補正など、リバーサルフィルムを使った撮影で、多彩な露出技法を駆使できます。
4. AF（オートフォーカス）のほかに、マニュアルフォーカス設定機能の搭載により、あらかじめ撮影距離を決めて移動被写体を撮影するなど、状況に合わせた撮影が可能です。
5. バルブおよびバルブタイマー機能の搭載により、夜景撮影の幅が広がります。
6. 多彩なストロボモードを装備し、状況に合わせたストロボワークが可能です。

同梱品

この製品には、カメラ本体以外に以下の付属品が同梱されています。箱を開けたときにご確認ください。

- □ リチウム電池　CR2　1本
- □ ネックストラップ
- □ 使用説明書　　□ 保証書

目　次

■この使用説明書の表記について
☞：参考になる情報などの記載
＊：注意などの記載

安全にご使用いただくために

- この製品および付属品は、写真撮影以外の目的に使用しないでください。
- 製品の安全性には十分配慮しておりますが、下記の内容をよくお読みの上、正しくご使用ください。
- この説明書はお読みになった後で、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警告	絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。
	落下などにより内部が露出したときは、絶対に触れないでください。高圧回路があり感電する恐れがあります。
	カメラ(電池)が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、ただちに電池を取り出してください。発火ややけどの恐れがあります(電池を取り出す際、やけどには十分ご注意ください)。
	ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。一時的に視力に影響することがあります。特に乳幼児を撮影するときは気をつけてください。
	カメラを水中に落としたり、内部に水または金属や異物などが入ったときは、ただちに電池を取り出してください。発熱・発火の恐れがあります。
	引火性の高いガスが充満している場所や、ガソリン、ベンジン、シンナーなどの近くでカメラを使用しないでください。爆発や発火・やけどの恐れがあります。

⚠警告	カメラは乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息する恐れがあります。 電池の分解、加熱、火中への投入、充電、ショートは絶対にしないでください。破裂の恐れがあります。 指定以外の電池を使わないでください。発熱・発火の恐れがあります。 電池は乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤って飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

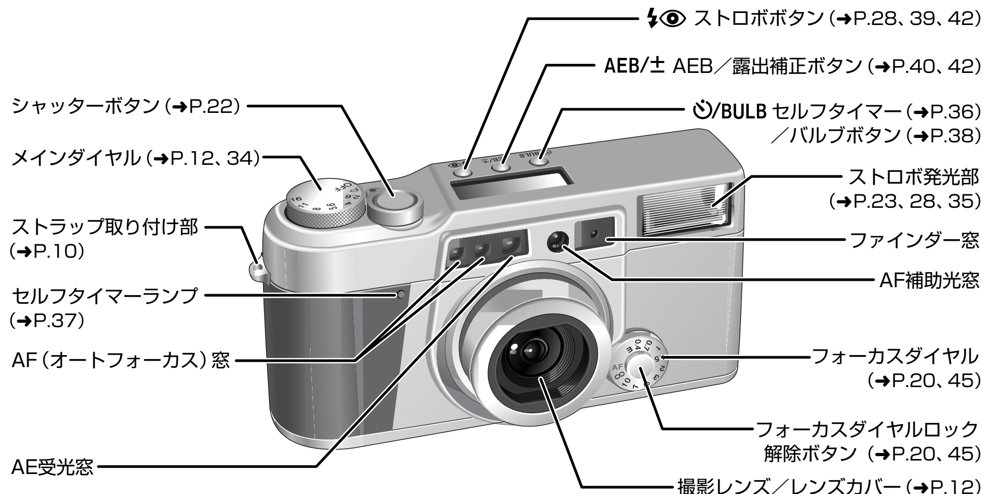
⚠注意	カメラをぬらしたり、ぬれた手で触ったりしないでください。感電の原因となることがあります。 自転車や自動車・列車などを運転している人に向けて、ストロボ発光撮影をしないでください。交通事故などの原因となることがあります。 電池の⊕⊖を誤って装てんしないようにご注意ください。電池の破裂、液もれにより、発火、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

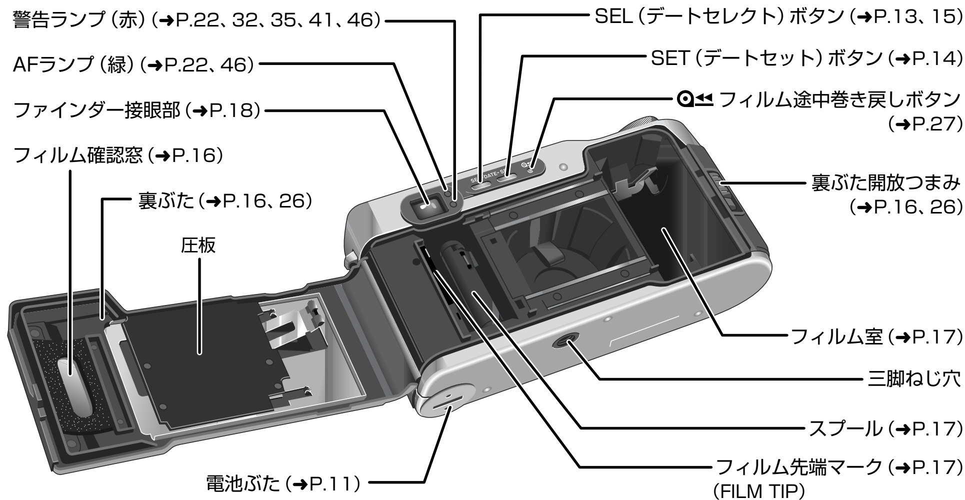


このマークは、安全性、衛生、環境及び消費者保護に関するEU（欧州連合）の要求事項を、製品が満足していることを証明するものです。（CEとはヨーロッパ認定（Conformité Européenne）の略）

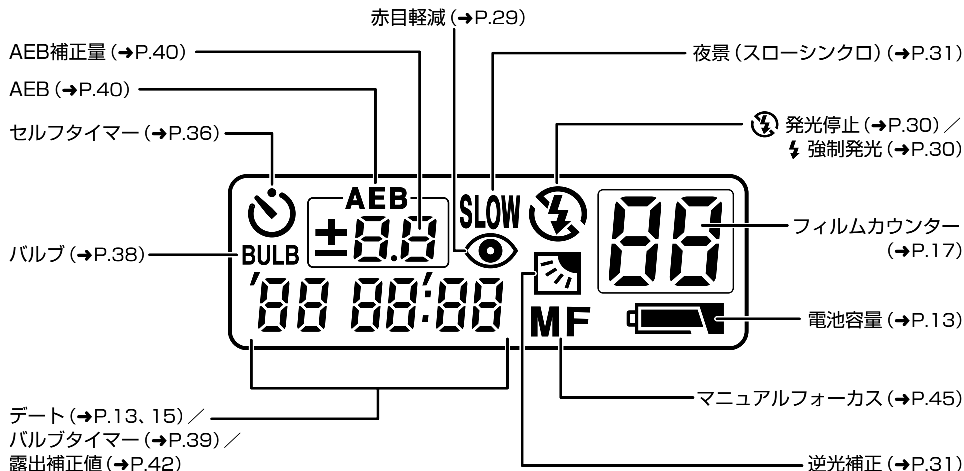
各部の名称

＊（　）内のページに詳しい説明があります。




警告ランプ（赤）（➔P.22、32、35、41、46）
AFランプ（緑）（➔P.22、46）
ファインダー接眼部（➔P.18）
フィルム確認窓（➔P.16）
裏ぶた（➔P.16、26）
圧板
電池ぶた（➔P.11）
SEL（デートセレクト）ボタン（➔P.13、15）
SET（デートセット）ボタン（➔P.14）
フィルム途中巻き戻しボタン（➔P.27）
裏ぶた開放つまみ（➔P.16、26）
フィルム室（➔P.17）
三脚ねじ穴
スプール（➔P.17）
フィルム先端マーク（➔P.17）（FILM TIP）

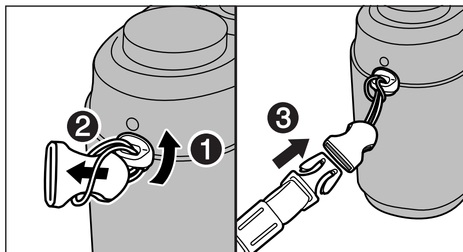
液晶表示部（すべての表示が現れている状態）



各部の主な機能

操　作　系	機　　能
メインダイヤル	電源OFF(➜12ページ)、プログラムAE(➜20ページ)、絞り優先AE(➜33ページ)を切り替えます。
フォーカスダイヤル	AF(オートフォーカス)(➜20ページ)、MF(マニュアルフォーカス)(➜45ページ)を切り替えます。
⚡👁ボタン	ストロボモード(➜28ページ)を設定します。
AEB/±ボタン	AEB撮影(➜40ページ)、露出補正(➜42ページ)を設定します。
⏱/BULBボタン	セルフタイマー撮影(➜36ページ)、バルブ撮影(➜38ページ)を設定します。
SETボタン SELボタン	デート合わせ(➜13ページ)、デートモード選択(➜15ページ)で使用します。
◉◀◀ボタン	撮影途中のフィルムを巻き戻すときに使用します(➜27ページ)。

ストラップを取り付けます



ストラップ取り付け部にストラップを取り付けます。

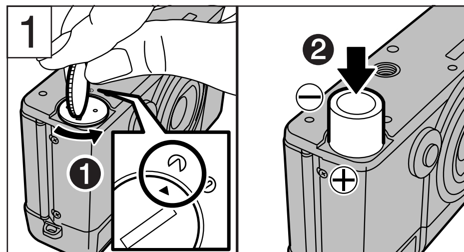
市販のストラップをご使用になる場合は、ストラップの強度をご確認の上、ご使用ください。携帯電話、PHS用ストラップは軽量機器用ですので、ご使用の際は特にご注意ください。

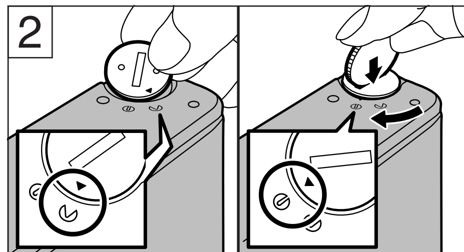
電池を入れます

■使用する電池
リチウム電池
フジフイルム　エバレディCR2　1本

- フィルムを入れる前に必ず電池を入れてください。
- 撮影の前には必ず電池容量をチェックしてください(➔13ページ)。

＊電池を交換した場合には必ずデートを合わせてください(➔13ページ)。
＊リチウム電池では約360コマ撮影できます(当社試験条件による)。
＊旅行や、たくさん写真を撮られるときは、万一の場合に備えて予備の電池をご用意ください。特に海外では地域によっては電池の入手が困難な場合があります。

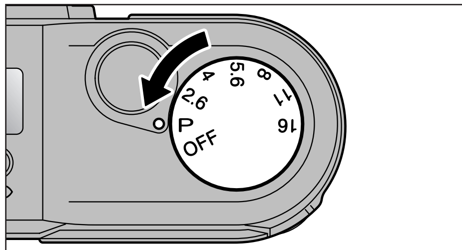




❶電池ぶたをコインなどで“ ⊂ ”まで回して開きます。
❷⊕⊖の方向を表示に合わせて電池を入れます。

電池ぶたの“▼”を“ ⊂ ”に合わせて、コインなどで押しながら“⊖”まで回して取り付けます。

電源ON



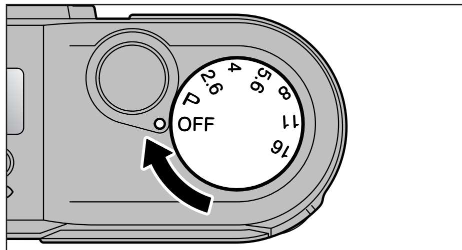
メインダイヤルを“P”あるいは絞り目盛りに合わせます。

☞レンズカバーが開き、鏡胴部が前に出てきます。液晶表示部に“▬”が表示されます。

＊電源を入れたまま約5分間放置すると、電源は自動的に切れます。再度電源ON状態にするには、次のいずれかの方法があります。

- ●シャッターボタンを半押しする。
- ●いったんメインダイヤルを“OFF”に合わせ、その後、元の位置に戻す。

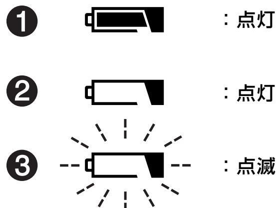
電源OFF



メインダイヤルを“OFF”に合わせます。

☞鏡胴部が収められ、レンズカバーが閉まります。また、液晶表示部が消えます。

電池容量のチェック



電源を入れ、液晶表示部で電池容量をチェックします。

❶電池の容量はOKです。

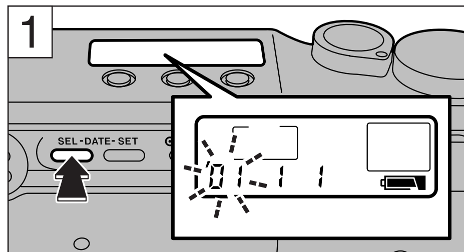
❷電池の容量が不足しています。新しい電池を準備してください。

❸電池容量がなくなったため、シャッターは切れません。新しい電池と交換してください。

＊撮影の前には必ず電池容量をチェックしてください。

＊電池の交換はフィルムが入っていても可能です。ただし、デートはリセットされますので、再セットしてください。

デート(年月日／時分)の合わせ方



電源を入れて、“**SEL**”ボタンを2秒以上押し続けます。

☞年が点滅し、デート修正モードになります。

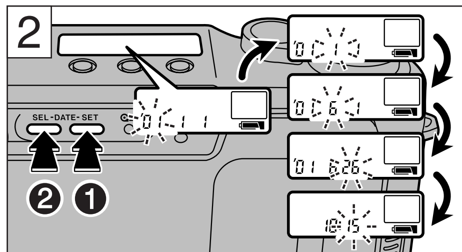
■設定範囲

年：'01～'40（2001年～2040年）

月：1～12　　日：　1～31

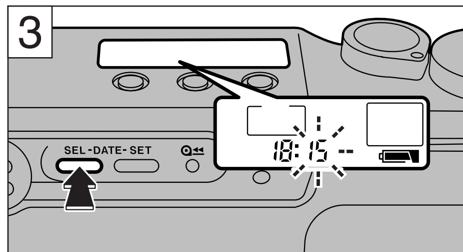
時：0～23　　分：00～59

デート（年月日／時分）の合わせ方



❶“SET”ボタンを押して、点滅している数字を修正します。
❷“SEL”ボタンを押すと、次の設定項目に移ります。

☞年→月→日→時→分の順に項目が移ります。



“分”を合わせたら、“SEL”ボタンを押してデート合わせを終了します。

☞時報に合わせたいときは、時報のゼロ秒時に“SEL”ボタンを押します。

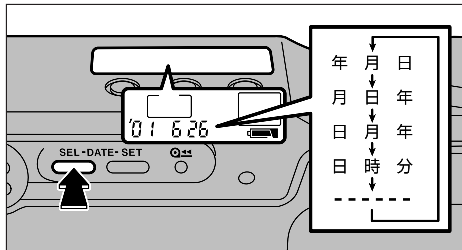
＊年月日は時分に連動して変わります。

デートモードの選択



デート（年月日／時分）は写真の右下に写し込まれます。

＊写し込まれたデート表示が、背景によっては見えにくくなる場合があります。



電源を入れて “**SEL**” ボタンを押すと、デートモードが図のように切り替わります。

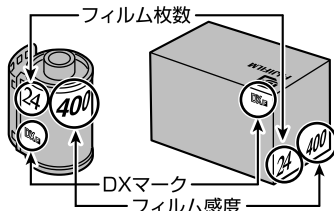
☞選択したモードが撮影時に写し込まれます。

＊“------” を選択すると、写真にデートは入りません。

＊デート合わせを行うと、デートモードは “年月日” の表示になります。デートを合わせたら、デートモードを選択し直してください。

フィルムを入れます

外箱とパトローネ（フィルムの容器）に、DXマークがある35mmフィルムを使用します。



■使用できる感度

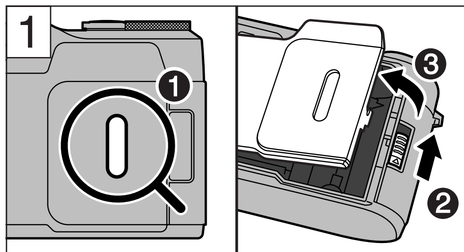
ISO 50、100、200、400、800、1600、3200

■撮影可能枚数

36EXP	24EXP	12EXP
36枚	24枚	12枚

＊規定枚数を超えて撮影できる場合がありますが、最後のコマはプリントされないことやデートの印字が途中で切れることがあります。

- 上記以外の感度のフィルム、DXマークのないフィルムはISO100の感度にセットされます。
- フィルムの装てん・取り出しは、直射日光を避けて行ってください。



❶フィルム確認窓からフィルムが装てんされていないことを確認します。

❷裏ぶた開放つまみを動かします。

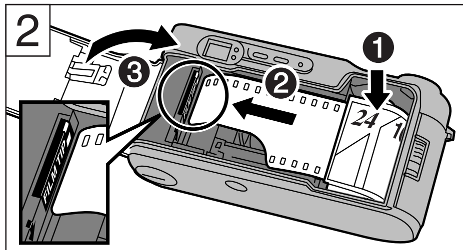
❸裏ぶたを開けます。

＊フィルムを入れる前に電池を入れてください。

＊撮影途中のフィルムが入っているときは絶対に裏ぶたを開けないでください。フィルムを取り出すときは27ページをご参照ください。

＊裏ぶたに無理な力を加えないでください。

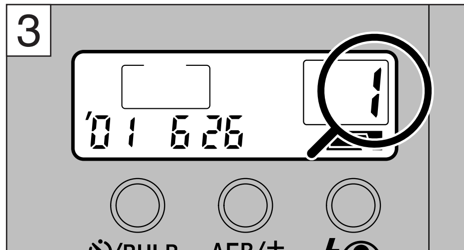
＊裏ぶたを開けた状態ではシャッターは切れません。裏ぶたを開けたままシャッターを切りたいときは、裏ぶた開放つまみを下側に動かしてください。



❶フィルムを入れます。
❷フィルムの先端を“**FILM TIP**”マークまで引き出し、スプールの上にのせます。
❸裏ぶたを閉めます。

☞フィルムが自動的に1コマ目まで送られます。

＊パトローネが浮き上がっていると裏ぶたが閉まりません。
＊フィルムを長く引き出しすぎたときは、フィルムを一度取り出して、長さを調節してください。ただし、フィルムを長く引き出しすぎると感光する恐れがありますので、ご注意ください。
＊フィルム確認窓を通して、装てんしたフィルムの種類、フィルム枚数、フィルム感度が確認できます。

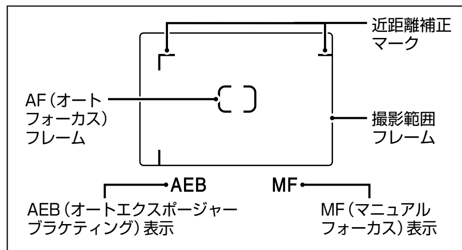


電源を入れ、フィルムカウンターの表示を確認します。

“1”が表示されない場合は、フィルムが送られていません。そのときシャッターは切れません。もう一度フィルムを入れ直してください。

基本編

ファインダーについて



AEB（オートエクスポージャーブラケティング）

AEBモード設定時、シャッターボタンを半押しすると、“**AEB**”が表示されます。

MF（マニュアルフォーカス）

マニュアルフォーカス設定時、シャッターボタンを半押しすると、“**MF**”が表示されます。

撮影範囲フレーム

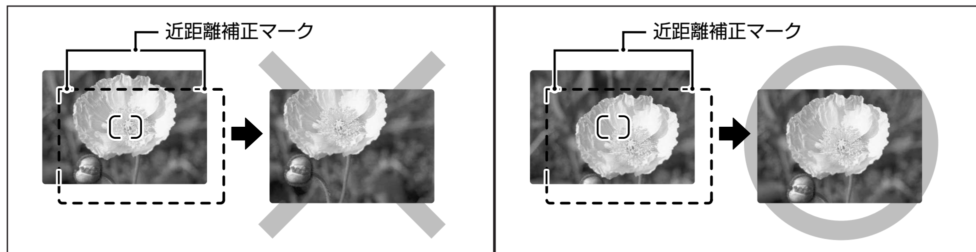
このフレーム内で構図を決めます。

AF（オートフォーカス）フレーム

写したいもの（被写体）にこのフレームを合わせます。

近距離補正マーク

撮影距離が約0.4m〜0.9mの場合に、構図を決めるのに使用します（➜19ページ）。



近距離撮影の場合

撮影距離が約0.4m～0.9mの場合は、上図の の範囲が写ります。

＊約0.4mまで近づいて撮影できます。

基本編

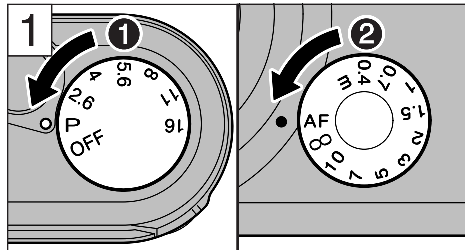
近距離撮影では、ファインダー窓から見える範囲と写る範囲にズレが生じます（ファインダー窓と撮影レンズの位置が違うため）。近距離補正マークは、ファインダー窓から見える範囲と実際に写る範囲の目安になります。

さあいよいよ撮影です（フルオート撮影の場合）

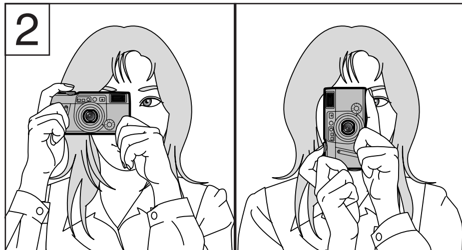
フルオート撮影

●ピント：AF（オートフォーカス）
●露出モード：プログラムAEモード
●ストロボモード：自動発光モード

ピント、露出、ストロボなど、すべてカメラが自動的に設定します。細かい設定を気にせず、気軽に撮影できます。



❶メインダイヤルを“P”に合わせて、電源を入れます。
❷フォーカスダイヤルを“AF”に合わせます。
☞フォーカスダイヤルは“AF”でロックされます。



両脇を締め、カメラを両手でしっかり構えます。

☞縦位置撮影ではストロボ発光部が上にくるように構えます。

＊撮影可能距離は0.4m〜∞です。

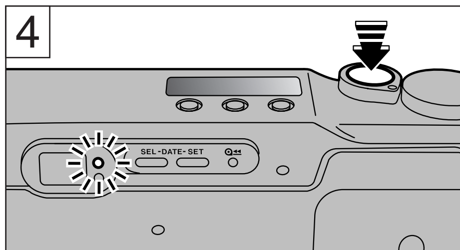
＊レンズやストロボ発光部、AF・AE窓に、指やストラップが掛からないようにしてください。



AFフレーム全体を被写体が満たすようにねらいます。

大切な撮影（結婚式や海外旅行、業務用途など）の前には試し撮りをして、カメラが正常に機能することを確認してください。

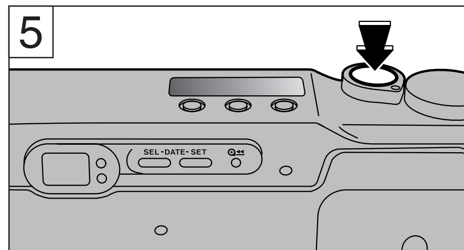
さあいよいよ撮影です（フルオート撮影の場合）



シャッターボタンを半押しします。

☞カメラが自動的にピントと露出を設定し、AFランプ（緑）が点灯します。

＊警告ランプ（赤）が消灯していることを確認してください。



シャッターを切ります。

☞暗いところでは自動的にストロボが発光します。

☞フィルムカウンターの数字が1増え、フィルムが次のコマまで送られます。

■フルオート撮影時のファインダーランプ表示について　（シャッターボタン半押し時）

表示		対処方法
AFランプ（緑）	点滅	① 0.4m〜∞で撮影してください（➜21ページ）。 ②「AFの苦手な被写体」（➜23ページ）を参考に、AFロック撮影してください。
警告ランプ（赤）※ストロボ発光時	点滅	●警告ランプの点滅が消えるまで離れてください（➜23ページ）。
	点灯	●ストロボ充電中です。消灯するまで待ってください（ストロボ充電時間は約4秒）。

＊ストロボ充電中にシャッターを切ると、露出アンダーになることがあります。

■ストロボ撮影範囲
ストロボ撮影時に適正露出が得られるストロボ撮影範囲は、使用フィルム感度、絞り（絞り優先AEモード時）によって異なります。プログラムAEモードでストロボが必要となる暗いところで撮影するときは、以下のストロボ撮影範囲内で行ってください。

フィルム感度	ストロボ撮影範囲
ISO 50	0.4 ～ 3.0m
ISO 100	0.4 ～ 4.2m
ISO 200	0.5 ～ 6.0m
ISO 400	0.7 ～ 8.5m
ISO 800	1.0 ～ 12.0m
ISO 1600	1.4 ～ 17.0m
ISO 3200	2.0 ～ 24.0m

（リバーサルフィルム使用時）

＊ネガフィルム使用時はラチチュードが広いため、リバーサルフィルムよりある程度遠い距離でも撮影できます。

◆AFの苦手な被写体◆

次のような場合、まれにピントが合わないことがあります。このようなときは、AFロック撮影（➔24ページ）、マニュアルフォーカス撮影（➔45ページ）を行ってください。

- 被写体の近くに太陽などの明るい光源や、反射光（車のフロントガラス、波の反射など）がある場合
- 画面の中央部付近に鏡、金属面などの反射面がある場合
- 被写体に比べて、背景が極端に明るい場合
- 被写体のコントラストが極端に低い場合
- 被写体が縦線のみで構成されている場合
- 被写体が高速で移動している場合

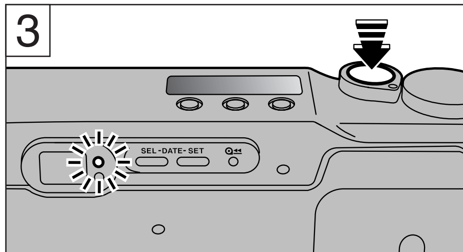
AF（オートフォーカス）ロック撮影



このような構図ではAFフレームが被写体（この場合は人物）から外れています。このままでは被写体にピントが合いません。



AFフレームに被写体が入るようにカメラを動かします。



そのままシャッターボタンを半押し（AFロック）します。

☞AFランプ（緑）の点灯を確認します。

＊このとき、フォーカスと同時に露出もロック（AEロック）されます。

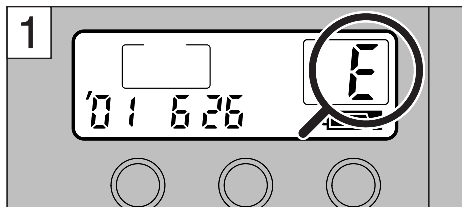


シャッターボタンを半押し（AFロック）したまま最初の構図に戻して、シャッターを切ります。

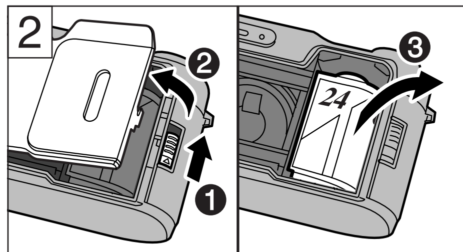
＊AFロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。

フィルムを取り出します／撮影途中でフィルムを取り出します

フィルムを取り出すときは



最後の1コマを撮り終わると、フィルムが自動的に巻き戻されます。
☞巻き戻しが完了すると、“E” が表示されます。

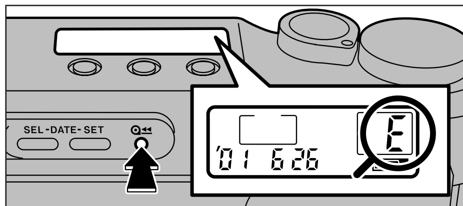


❶裏ぶた開放つまみを動かします。
❷裏ぶたを開けます。
❸フィルムを取り出します。
＊裏ぶたに無理な力を加えないでください。

必ずモーターが止まり “E” が表示されたことを確認してください。“E” が表示される前に裏ぶたを開けようとすると、カメラが故障したり、フィルムが感光する恐れがあります。

巻き戻したフィルムを入れたままの状態では、電源OFFにしてもレンズは収納されません。フィルムの巻き戻しが完了したら、フィルムを取り出してください。

撮影途中で巻き戻すには



"Q⯇⯇" ボタンを押します。

☞巻き戻しが完了すると、"E" が表示されます。

撮影途中のフィルムが入っているときは絶対に裏ぶたを開けないでください。万一開いたときは、フィルムを取り出さず、そのまま閉めてください。

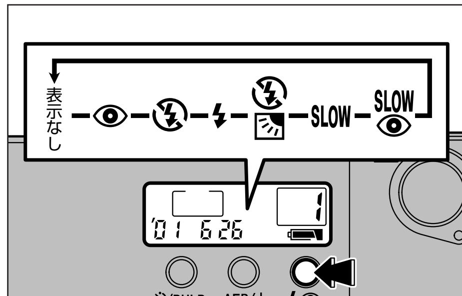
☞撮影済みのフィルムは感光しています。そのままふたを閉めれば再セットされ、残りのコマを撮影できます。

☞フィルムカウンターは "1" にリセットされます。

必ずモーターが止まり "E" が表示されたことを確認してください。"E" が表示される前に裏ぶたを開けようとすると、カメラが故障したり、フィルムが感光する恐れがあります。

ストロボモード

このカメラには、7種類のストロボモードが用意されています。被写体に応じた撮影を楽しむことができます。



"⚡◉"ボタンを押すと、図のようにストロボモードを選択できます。



表示なし 自動発光モード

通常の撮影に使用します。

暗いところで自動的に発光します。

ストロボモードは撮影後も保持され、続けて撮影することができます。電源を切ると自動的に解除されます。



◎ 赤目軽減モード

赤目現象を軽減します。

ストロボが4回プレ発光した後、5回目に撮影のためのストロボが発光します。

◆赤目現象について◆

人物を暗いところでストロボ撮影した場合、目が赤く写ることがあります。これは、ストロボの光が目の中で反射することにより起こる現象です。赤目を起こりにくくするためには、赤目軽減モードを使用すると共に、

- 撮られる人にカメラの方に視線を向けてもらう
- なるべく近づいて撮影する

などするとより効果的です。





ⓧ ストロボ発光停止モード

室内照明を利用しての撮影、舞台や室内競技などのストロボ光が届かない距離での撮影などに使用します。

ストロボの発光を停止します。

＊暗い場所で撮影するときは、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。

⚡ ストロボ強制発光モード

窓際や木陰などの逆光撮影で使用します。

明るいところでもストロボが発光します。







逆光補正なし　逆光補正使用

逆光補正モード

雪山や砂浜などの逆光撮影で使用します。

ストロボ発光停止モードになり、+2.0EV露出補正して撮影します。全体が明るめになり、被写体を自然な陰影・色で撮影できます。



SLOW 夜景（スローシンクロ）モード

夜景の撮影で使用します。

スローシャッターのストロボ強制発光モードになります。

SLOW 夜景（スローシンクロ）ポートレートモード

夜景と人物を同時に撮影するときに使用します。

スローシャッター・赤目軽減モード（プレ発光4回後ストロボ発光）になります。

夜景モード／夜景ポートレートモードでは、スローシャッターになりますので、手ブレ防止のため必ず三脚を使用してください。また、撮影中は被写体が動かないようにしてください。

■ストロボモード使用時の警告ランプ表示について

（シャッターボタン半押し時）

表示		対処方法	
警告ランプ（赤）	点滅	プログラムAE	●自動発光モード（表示なし）、“◉”“⚡”“SLOW”“SLOW ◉” ：警告ランプの点滅が消えるまで離れてください（➔23ページ）。 ●“⊘”：暗いところでは、“⚡”にしてください。 ●“⊘ ▨”：露出連動範囲外です。
		絞り優先AE	●自動発光モード（表示なし）、“◉”“⚡”“SLOW”“SLOW ◉” ：露出オーバーになりますので、絞りを絞るか、警告ランプの点滅が消えるまで離れてください（➔35ページ）。 ●“⊘”：明るいところでは、絞りを絞ってください。 暗いところでは、絞りを開けるか、“⚡”にしてください。 ●“⊘ ▨”：絞りを絞ってください。
	点灯	●ストロボ充電中です。消灯するまで待ってください（ストロボ充電時間は約4秒）。	

＊“⊘”“SLOW”が表示されるストロボモード使用時、1／45秒よりスローシャッターになる場合には上記以外にも警告ランプ（赤）が点滅します。このときは、手ブレ防止のため三脚を使用してください（警告ランプは点滅のままになります）。

＊ストロボ充電中にシャッターを切ると、露出アンダーになることがあります。

絞り優先AE撮影

絞りを設定すると、適正露出になるようにカメラが自動でシャッタースピードを設定します。
絞りの設定と効果は次のような関係になります。

絞り目盛りを小さい数値にする（絞りを開ける）

☞背景をぼかし、被写体だけにピントが合います（被写界深度が浅くなります）。

＊ポートレート撮影などに有効です。

絞り目盛りを大きい数値にする（絞りを絞る）

☞広い範囲にピントが合います（被写界深度が深くなります）。

＊風景撮影などに有効です。

◆被写界深度とは◆

被写体にピントを合わせたとき、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を「被写界深度」といいます。

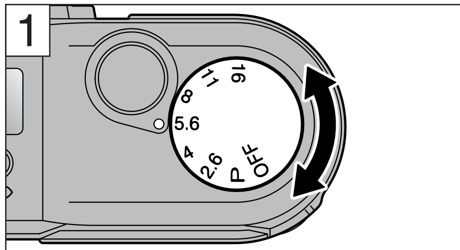
- 「被写界深度が深い」といった場合は、ピントの合う範囲が「広い」ことを指します。
- 「被写界深度が浅い」といった場合は、ピントの合う範囲が「狭い」ことを指します。

性　質

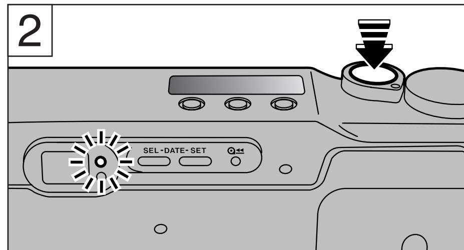
①絞りが開放になるにともない被写界深度は浅くなり、絞り込むほど被写界深度は深くなります。
②撮影距離が遠くなるほど被写界深度は深く、近いほど浅くなります。
③ピントを合わせた被写体の前方深度（近い側）は後方深度（遠い側）より浅くなります。

＊詳しくは49ページの被写界深度表をご参照ください。

絞り優先AE撮影



メインダイヤルを回して、絞りを設定します。



シャッターボタンを半押しして、AFランプ(緑)の点灯、警告ランプ(赤)の消灯を確認した後、シャッターを切ります。

メインダイヤルは、クリックのあるところにセットしてください。中間にセットすると、露出不良の原因になります。

＊絞り／シャッタースピード／被写界深度の関係について詳しくは、48ページ～をご参照ください。

■絞り優先AE撮影時の警告ランプ表示について

（シャッターボタン半押し時）

表示		対処方法
警告ランプ（赤）	点滅	● 自動発光モード(表示なし)、“◉”“ϟ”“SLOW”“SLOW ◉” ：露出オーバーになりますので、絞りを絞るか、警告ランプの点滅が消えるまで離れてください(➜35ページ)。 ●“⊘”：明るいところでは、絞りを絞ってください。 暗いところでは、絞りを開けるか、“ϟ”にしてください。 ●“⊘ ▣”：絞りを絞ってください。
	点灯	●ストロボ充電中です。消灯するまで待ってください(ストロボ充電時間は約4秒)。

＊“⊘”“SLOW”が表示されるストロボモード使用時、1／45秒よりスローシャッターになる場合には上記以外にも警告ランプ(赤)が点滅します。このときは、手ブレ防止のため三脚を使用してください(警告ランプは点滅のままになります)。

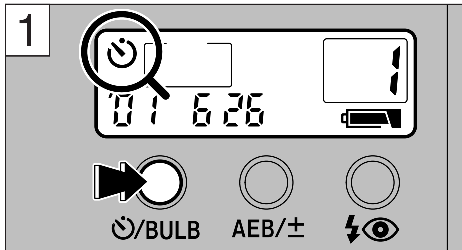
＊ストロボ充電中にシャッターを切ると、露出アンダーになることがあります。

■絞り優先AE撮影時、ストロボ光の届く距離は、ガイドナンバーを絞り値で割って算出します。

$$\text{ストロボ光の届く距離}=\frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{絞り値}}$$

フィルム感度	ガイドナンバー
ISO 50	5.5
ISO 100	11
ISO 200	15.5
ISO 400	22
ISO 800	31
ISO 1600	44

セルフタイマー撮影



"/BULB"ボタンを押して、""を表示します。

☞""→"BULB"→表示なしの順に切り替わります。



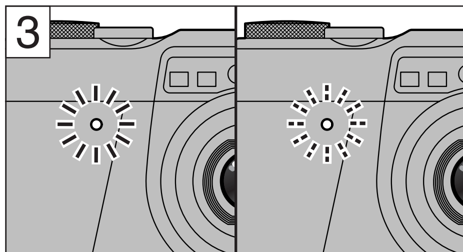
❶AFフレームを写したいものに合わせて、構図を決めます。

❷シャッターボタンを押します。

☞シャッターボタンを半押しすると、ピントと露出が設定されます。シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーがスタートします。

☞AFロック撮影も可能です（➔24ページ）。

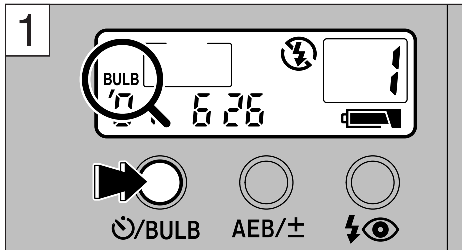
カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピンボケや露光不良になることがあります。



セルフタイマーランプが約7秒間点灯した後点滅に変わり、約3秒後にシャッターが切れます。

● スタートしたセルフタイマーモードを解除したいときは、“ 🕙/BULB ” ボタンを押してください。
● セルフタイマーモードは、撮影後または電源を切ると自動的に解除されます。

バルブ撮影



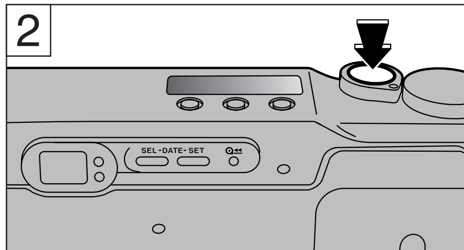
長時間の露光が必要な夜景の撮影などに使用します。

“Ò/BULB”ボタンを押して、“BULB”を表示します。

☞“Ò”→“BULB”→表示なしの順に切り替わります。

＊バルブ撮影モード設定時、ストロボモードはストロボ発光停止モードになりますが、“ϟ◉”ボタンを押すと、自動発光モードと赤目軽減モードも選択できます。

手ブレ防止のため、必ず三脚を使用してください。

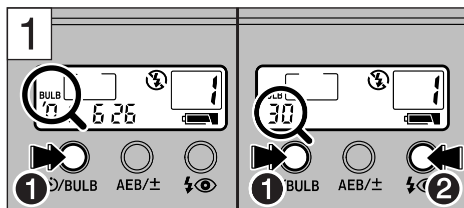


シャッターボタンを押している間、シャッターが開きます。

＊一回の撮影ごとに解除されます。

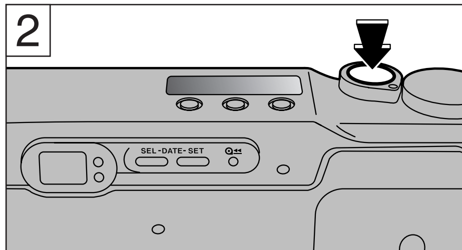
＊バルブ撮影モード時には、シャッターボタンを半押しすると警告ランプ（赤）が点滅します。手ブレ防止のため三脚を使用してください（警告ランプは点滅のままになります）。

露光時間を決めてバルブ撮影するには



❶"Ò/BULB"ボタンを押して"BULB"を表示し、そのまま"Ò/BULB"ボタンを押し続けます。
❷そのまま"Ò/BULB"ボタンを押し続けながら、同時に"⚡◉"ボタンを押して、露光時間を切り替えます。希望する露光時間が表示されたら、"Ò/BULB"ボタンから指を離してください。

■設定可能時間
1秒、2秒、4秒、8秒、15秒、30秒、60秒



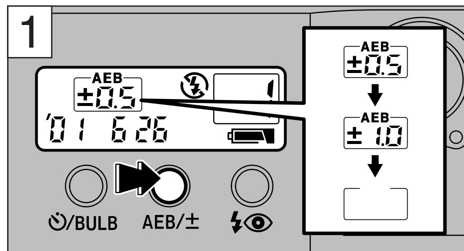
シャッターボタンを押します。
☞液晶表示部の秒数がカウントダウンします。シャッターボタンを離した後も、設定された時間中シャッターは開いています。

＊一回の撮影ごとに解除されます。

応用編

AEB（オートエクスポージャーブラケティング）撮影／露出補正

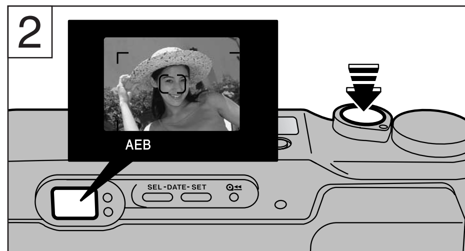
AEB（Auto Exposure Bracketing）撮影では、適正露出を基準に、適正露出→アンダー→オーバーの計3コマを連続して撮影できます。また、適正露出・アンダー・オーバーから2コマ選んで撮影したり、アンダー・オーバーのどちらか1コマだけ撮影（露出補正）することもできます。リバーサルフィルムを使用した撮影や微妙な色合いを表現したいときに有効です。



“AEB/±”ボタンを押して、AEB補正量を選びます。

☞ストロボは自動的に発光停止になります。

＊逆光補正モード（➜31ページ）からAEB撮影モードには切り替えられません。“⚡◉”ボタンを押して他のストロボモードにしてから“AEB/±”ボタンを押してください。

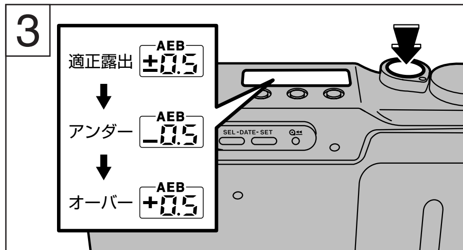


シャッターボタンを半押しします。

☞ファインダー内に“AEB”が点灯します。

＊設定した露出が得られない場合、ファインダー内の“AEB”、液晶表示部の“AEB”とAEB補正量が点滅し、シャッターは切れません。

＊1／45秒よりスローシャッターになる場合には、警告ランプ（赤）が点滅します。このときは、手ブレ防止のため三脚を使用してください（警告ランプは点滅のままになります）。



連写する場合

シャッターボタンを押し続けると、図のように適正露出→アンダー→オーバーの順で3コマ連続で撮影します。

1コマずつ撮影する場合

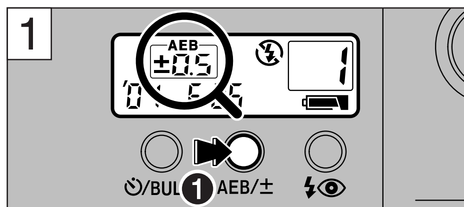
1コマずつシャッターボタンを押します。もう一度シャッターボタンを押すと、続きから撮影が再開されます。

☞解除したいときは、再度"AEB/±"ボタンを押してください。
☞3コマとも、1コマ目のピントで撮影します。3コマ撮り終わると、ピントと露出はリセットされます。

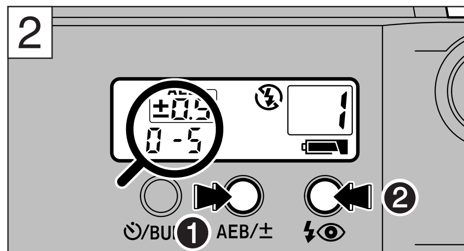
＊3コマ撮り終わっても、AEB撮影モードは解除されません。
＊フィルム残数が3コマ未満の場合、残数分しか撮影できません。

AEB（オートエクスポージャーブラケティング）撮影／露出補正

1コマまたは2コマの露出補正を行うには



“AEB/±”ボタンを押して補正量（“±0.5”または“± 1.0”）を選び、そのまま“AEB/±”ボタンを押し続けます。



そのまま“AEB/±”ボタンを押し続けながら、同時に“⚡◉”ボタンを押して、補正値の組み合わせを選びます。希望する組み合わせが表示されたら、“AEB/±”ボタンから指を離してください。

■補正値の組み合わせ

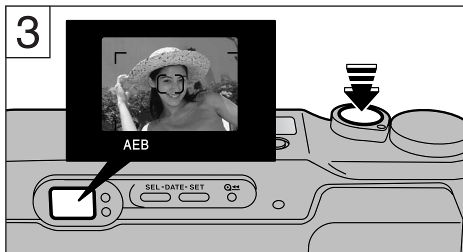
● 補正量±0.5を選んだ場合

液晶表示	1コマ目	2コマ目
0　-5	適正露出	−0.5EV
0　5	適正露出	+0.5EV
-5　5	−0.5EV	+0.5EV
-5	−0.5EV	—
5	+0.5EV	—

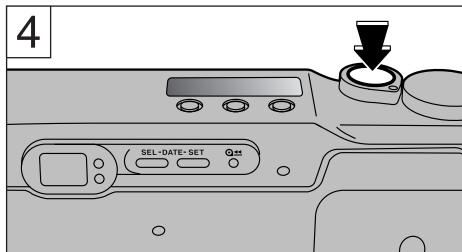
● 補正量± 1.0を選んだ場合

液晶表示	1コマ目	2コマ目
0　-1	適正露出	−1.0EV
0　1	適正露出	+1.0EV
-1　1	−1.0EV	+1.0EV
-1	−1.0EV	—
1	+1.0EV	—

＊+2.0EVの露出補正を行う場合は、逆光補正モードをご使用ください（➜31ページ）。



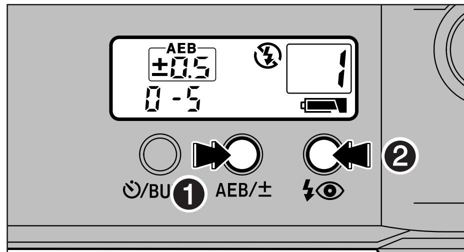
シャッターボタンを半押しします。
☞ファインダー内に“**AEB**”が点灯します。
＊設定した露出が得られない場合、ファインダー内の“**AEB**”、液晶表示部の“**AEB**”とAEB補正量が点滅し、シャッターは切れません。



シャッターを切ります。
☞1コマ目のピントで撮影します。
☞撮り終わった補正値は液晶表示部から消えます。組み合わせをすべて撮影すると、露出補正を終了し、AEB撮影モードになります。
＊解除するときは、“**AEB/±**”ボタンを押してください。

AEB（オートエクスポージャーブラケティング）撮影／露出補正

露出補正の設定を保持するには



露出補正を設定するときに（➔42ページ1～2）次のように操作すると、同じ組み合わせで繰り返し撮影できます。

❶ “AEB/±” ボタンを押して補正量（“±0.5” または “± 1.0”）を選び、そのまま “AEB/±” ボタンを押し続けます。

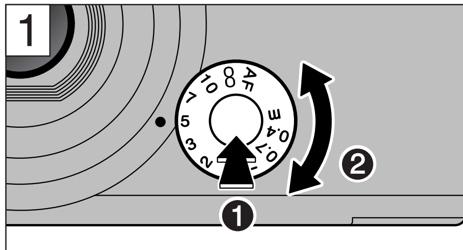
❷ そのまま “AEB/±” ボタンを押し続けながら、同時に “ϟ◎” ボタンを押して、組み合わせを選び、そのまま “ϟ◎” ボタンを2秒間押し続けます。

☞補正量（“±0.5” または “± 1.0”）が点滅し、設定が保持されていることを示します。

☞撮り終わった補正値は液晶表示部から消えます。補正値は、組み合わせをすべて撮影し終わるたびに、表示し直されます。

＊解除するときは、“AEB/±” ボタンを押してください。

マニュアルフォーカス撮影



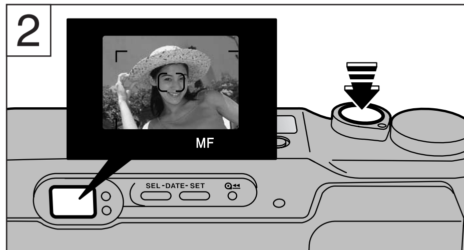
AFでピントが合わない場合や撮影距離を固定したいときに使用します。

あらかじめカメラと被写体の距離を目測で測り、❶フォーカスダイヤルロック解除ボタンを押しながら、❷フォーカスダイヤルを回して撮影距離を合わせます。

☞液晶表示部に"**MF**"が点灯します。

＊フォーカスダイヤルが"**AF**"に合っているときだけロックされています。

＊撮影距離が"∞"のときは、ストロボ発光停止モードになります。



シャッターボタンを押して撮影します。

☞シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に"**MF**"が点灯します。

＊マニュアル撮影終了後は、フォーカスダイヤルを"**AF**"に合わせておくことをおすすめします。

＊マニュアルフォーカスダイヤルは、フィルム面からの距離を示します。カメラ上面の"**/BULB**"、"**AEB/±**"の文字の下側がフィルム面に相当します。

フォーカスダイヤルは、クリックのあるところにセットしてください。中間にセットすると、ピント不良の原因になります。

参考データ

■ファインダーランプ表示について

（シャッターボタン半押し時）

<table>
<tr><th colspan="2">表示</th><th colspan="2">対処方法</th></tr>
<tr><td rowspan="2">AFランプ
（緑）</td><td>点滅</td><td colspan="2">① 0.4m～∞で撮影してください（➜21ページ）。
②「AFの苦手な被写体」（➜23ページ）を参考に、AFロック撮影、あるいはマニュアルフォーカス撮影してください。</td></tr>
<tr><td>点灯</td><td colspan="2">●撮影できます。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">警告ランプ
（赤）</td><td rowspan="2">点滅</td><td>プログラムAE</td><td>● 自動発光モード（表示なし）、“◉”“ϟ”“SLOW”“SLOW ◉”
：警告ランプの点滅が消えるまで離れてください（➜23ページ）。
●“⊘”：暗いところでは、“ϟ”にしてください。
●“⊘ ▨”：露出連動範囲外です。</td></tr>
<tr><td>絞り優先AE</td><td>● 自動発光モード（表示なし）、“◉”“ϟ”“SLOW”“SLOW ◉”
：露出オーバーになりますので、絞りを絞るか、警告ランプの点滅が消えるまで離れてください（➜35ページ）。
●“⊘”：明るいところでは、絞りを絞ってください。
暗いところでは、絞りを開けるか、“ϟ”にしてください。
●“⊘ ▨”：絞りを絞ってください。</td></tr>
<tr><td>点灯</td><td colspan="2">●ストロボ充電中です。消灯するまで待ってください（ストロボ充電時間は約4秒）。</td></tr>
</table>

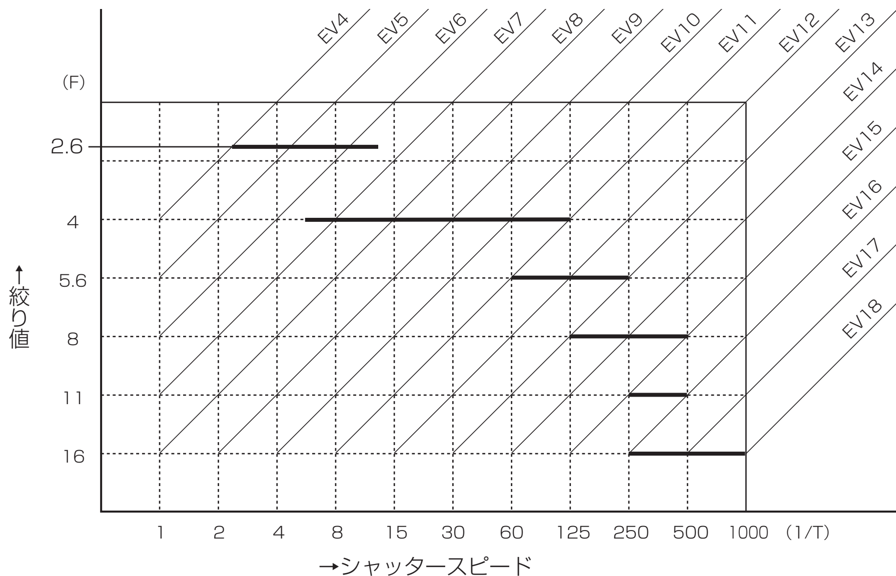
＊“⊘”“SLOW”が表示されるストロボモード使用時、1／45秒よりスローシャッターになる場合には上記以外にも警告ランプ（赤）が点滅します。このときは、手ブレ防止のため三脚を使用してください（警告ランプは点滅のままになります）。

＊“BULB”時には、シャッターボタンを半押しすると警告ランプ（赤）が点滅します。手ブレ防止のため三脚を使用してください（警告ランプは点滅のままになります）。

＊ストロボ充電中にシャッターを切ると、露出アンダーになることがあります。

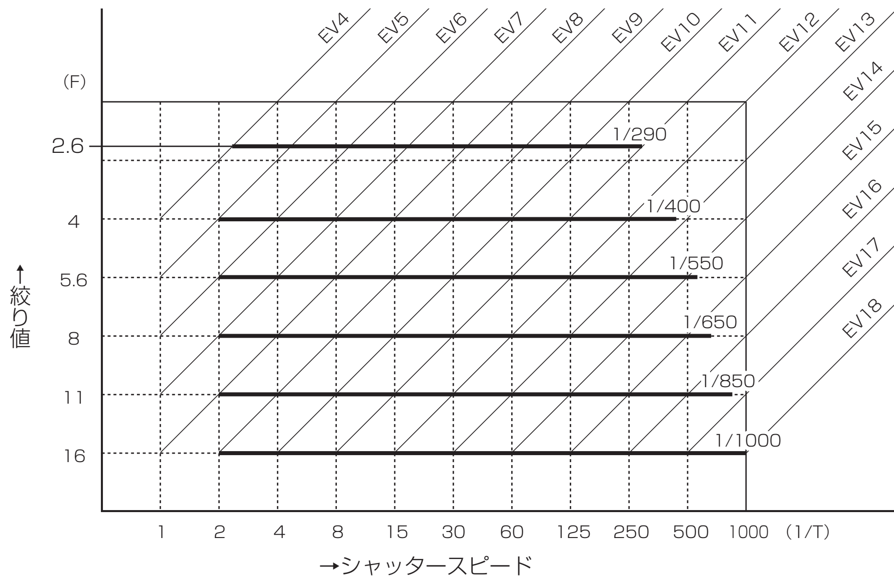
■プログラム線図
〔プログラムAE〕Pモード

＊使用するフィルム感度（ISO）にかかわらず、自動発光モード使用時、シャッタースピードが1／45秒より遅くなるとストロボが発光します。
例：ISO100のフィルム使用時、EV9.5より暗いとき



■絞り優先AE時の露出制御線図

＊使用するフィルム感度（ISO）にかかわらず、自動発光モード使用時、シャッタースピードが1／45秒より遅くなるとストロボが発光します。
例：ISO100のフィルム使用時、EV9.5より暗いとき



■被写界深度表

(m)

	0.4m	0.7m	1.0m	1.5m	2.0m	3.0m	5.0m	7.0m	10.0m	∞
F2.6	0.39~0.41	0.68~0.73	0.95~1.06	1.39~1.64	1.80~2.25	2.56~3.62	3.88~7.05	4.97~11.9	6.31~24.3	16.9~∞
F4	0.39~0.41	0.67~0.74	0.93~1.09	1.33~1.72	1.71~2.42	2.38~4.08	3.46~9.06	4.30~19.0	5.26~107	11.0~∞
F5.6	0.39~0.42	0.65~0.76	0.90~1.13	1.28~1.83	1.61~2.64	2.20~4.77	3.08~13.4	3.73~61.0	4.43~∞	7.85~∞
F8	0.38~0.42	0.63~0.79	0.86~1.19	1.20~2.01	1.49~3.06	1.97~6.39	2.65~49.5	3.11~∞	3.58~∞	5.51~∞
F11	0.37~0.43	0.61~0.82	0.82~1.29	1.12~2.31	1.36~3.83	1.75~11.2	2.26~∞	2.58~∞	2.89~∞	4.02~∞
F16	0.36~0.45	0.58~0.89	0.76~1.49	1.00~3.08	1.19~6.63	1.47~∞	1.81~∞	2.01~∞	2.19~∞	2.78~∞

このようなときは

操作中このようなときは…

このようなときは	ここをチェック	こうしてください	参照ページ
シャッターが切れない。	①“▭”が点滅していませんか。 ②電源は入っていますか。 ③フィルムカウンターが“0”で点滅していませんか。 ④“E”が表示されていませんか。 ⑤セルフタイマー作動中ではありませんか。 ⑥ファインダー内の“**AEB**”、液晶表示部の“**AEB**”が点滅していませんか。	①新しい電池に交換してください。 ②メインダイヤルを回して、電源を入れてください。 ③フィルムの先端を“**FILM TIP**”マークまで引き出して､正しくフィルムを入れてください。 ④フィルムを取り出して、未使用のフィルムを入れてください。 ⑤“⏱/BULB”ボタンを押してセルフタイマーを解除してください。 ⑥•AEB補正量を小さくしてください。 •絞り優先AE撮影時には、絞り値を変えるか、あるいは“P”にしてください。 •“AEB/±”ボタンを押して、AEB撮影モードを解除してください。	13ページ 12ページ 17ページ 16ページ 36ページ 40ページ 41ページ 41ページ
フィルムを入れて電源を入れても、フィルムカウンターが“1”にならない。	●電池が入っていますか。	●フィルムを入れる前に電池を入れてください。	11ページ
ピントが合わない（AF使用時にAFランプ（緑）が点滅）。	①被写体に近づきすぎていませんか。 ②AFの苦手な被写体をねらっていませんか。	①0.4m以上離れて撮影してください。 ②AFロック撮影またはマニュアルフォーカス撮影してください。	21ページ 24、45ページ

操作中このようなときは…

このようなときは	ここをチェック	こうしてください	参照ページ
液晶表示部がすべて点灯している。	—	●カメラの故障です。フィルムを取り出さずに弊社サービスステーションにお問い合わせください。	

プリントがこのようなときは…

このようなときは	ここをチェック	こうしてください	参照ページ
画面がぼんやりしている。	① AF窓をかくして撮影しませんでしたか。	① AF窓をかくさないようにカメラを正しく構えてください。	21ページ
	② 被写体のねらい方が適切でしたか。	② AFフレームでねらって撮影またはAFロック撮影してください。	24ページ
	③レンズが汚れていませんか。	③ レンズをきれいにしてください。	54ページ
	④ 手ブレしていませんか。	④ カメラをしっかり構え、シャッターボタンを静かに押してください。スローシャッター時は三脚を使用してください。	21ページ
	⑤ マニュアルフォーカス撮影時、撮影距離は正しくセットされていましたか。	⑤ 撮影距離を正しくセットしてください。	45ページ
	⑥ AFランプ（緑）の点滅を無視して撮影しませんでしたか。	⑥ AFロック撮影またはマニュアルフォーカス撮影してください。	24、45ページ

このようなときは

プリントがこのようなときは…

このようなときは	ここをチェック	こうしてください	参照ページ
画面が暗い。	① 警告ランプ（赤）の点灯／点滅を無視して撮影しませんでしたか。	① • ストロボの充電が完了してから撮影してください。 • 絞り優先AE撮影時には、絞りを変えるか、“P”にしてください。 • ストロボ強制発光モードにしてください。	22、32、35ページ 34、20ページ 30ページ
	② 暗い場所でのストロボ撮影で、被写体が遠すぎませんか。	② 規定のストロボ撮影範囲内で撮影してください。	23、35ページ
	③ ストロボ撮影時にストロボ発光部に指が掛かっていませんでしたか。	③ ストロボ発光部に指を掛けないでください。	21ページ
	④ 窓際などの逆光撮影ではありませんか。	④ “⚡”または“⚡̸ ▨”モードにセットして撮影してください。	30、31ページ
画面が明るい。	① 警告ランプ（赤）の点滅を無視して撮影しませんでしたか。	① • 絞り優先AE撮影時には、絞りを変えるか、“P”にしてください。 • 撮影距離が近すぎます。警告ランプの点滅が消えるまで離れてください。	34、20ページ 23、35ページ
	② “⚡̸ ▨”モードになっていませんでしたか。	② “⚡̸ ▨”モード以外で撮影してください。	28ページ
デートの（日付／時間）が合っていない。	● 電池を入れたとき、もしくは電池交換時に修正しましたか。	● 電池を入れたとき、もしくは電池を交換したときは、日付と時間を修正してください。	13ページ

プリントがこのようなときは…

このようなときは	ここをチェック	こうしてください	参照ページ
デートが写し込まれていない／はっきり写らない。	① デートモードを“-- -- --”にして撮影しませんでしたか。 ② デートの写る位置に、白・黄・だいだい色などの明るいものがありませんか。	① “-- -- --”以外のデートモードを選択して撮影してください。 ② デートの写る位置に、なるべく明るいものがこないようにしてください。	15ページ 15ページ

取扱上のお願い

カメラは精密機械です。取り扱いには次のようなことに十分ご注意ください。

1．カメラの清掃

- 汚れをふき取るのにシンナー、アルコールなどの溶剤は使用しないでください。
- 撮影前後に、カメラの清掃を行ってください。ブロアーブラシでほこりを払い、カメラの外側はシリコンクロスなどの柔らかい布でふいてください。
- フィルム室に汚れやほこりがあると、フィルムを傷つけることがあります。特にカメラ内部の清掃は常に心掛けてください。

2．レンズの清掃

- レンズのすり傷は、想像以上にシャープネスの劣化につながります。何となくコントラストが低下し、しまりのない写真になったら、すり傷が原因になっていることが考えられます。
  そこで、レンズ清掃は以下のように注意深く行ってください。
  ① レンズ表面のごみ、ほこりをブロアーブラシで吹きとばしてください。
  ② クリーニングペーパーに市販のレンズクリーニング液を浸して、軽くレンズの中心から周辺に向かって、回しながらふき取ります。
  ③ レンズの汚れがとれたら、乾いたクリーニングペーパーでレンズクリーニング液のふきむらを、レンズの中心から周辺に向かって、回しながら軽くふき取ります。
- レンズにごみ、ほこりなどが付いているとき、息を吹きかけてシリコンクロスなどでふくことは絶対避けてください。すり傷発生の原因になります。
- AF窓、ファインダーについても、レンズ清掃と同じように清掃を行ってください。AF窓の傷は、正しい距離測定に支障を来すことがあります。同様にファインダーの汚れ・傷はファインダーの見えに影響を与えることがあります。

3．液晶表示について

- 約60°Cの高温では、液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることがありますが、これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

4．電池について

- 低温下では、電池は性能が低下する性質を持っ

ています。常温に戻れば性能は回復します。低温下での撮影には、新しい電池を使用し、予備の電池をポケットなどに入れて、温めながら交互に使うなどの方法をとってください。消耗した電池では低温時、カメラが作動しなくなることがあります。

●電池容量の表示が“ ”になりましたら電池交換が必要となりますので、予備の電池と交換してください。

5．使用温度範囲

●このカメラの使用温度範囲は−10˚C〜＋40˚Cです。

6．保　管

●夏期は、高温の自動車の中や湿気のある場所に長時間放置しないでください。

●カメラを保管するときは、湿気、ほこり、熱の影響のないところに収納してください。

●ナフタリンなど防虫剤のガスは、カメラにもフィルムにも有害ですから、たんすなどへの収納は避けてください。

7．フィルムの出し入れ

●必ず直射日光を避けて行ってください。

アフターサービスについて

お手持ちの製品が故障した場合には、次の要領で修理させていただきます。ご購入店または富士フイルムサービスステーションに直接お申し出ください。それ以外の責は、ご容赦いただきます。なお、保証、使い方などのご不明の点につきましても、裏面記載のお近くの弊社営業所やサービスステーションをご利用ください。

● 無料修理

故障した製品についてはご購入年月日、販売店名の記入された、ご購入日より1年以内の保証書が添付されている場合には、保証書に記載されている内容の範囲内で、無料修理させていただきます。

＊詳しくは、保証書に記載されている製品保証規定をご覧ください。

● 有料修理

保証期間を過ぎた修理は、原則として有料となります。保証期間内であっても、下記のような場合はすべて有料となります。また運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。

1. 修理ご依頼の際、保証書の提示または添付のないもの。
2. 保証書にご購入年月日、販売店名が記入されていない場合、または記載事項が訂正された場合。
3. 富士フイルムサービスステーション以外で分解、修理されたもの。
4. 火災、地震、風水害などの天災による損害、故障。
5. お取扱上の不注意（使用説明書以外の誤操作、落下、衝撃、水掛かり、砂・泥の付着、カメラ内部への水・砂・泥の入り込みなど）、保管上の不備（高温多湿やナフタリン、しょうのうの入った場所での保管）、お手入れの不備（かび発生など）により生じた故障。
6. 前記以外で弊社の責に帰すことのできない原因により生じた故障。
7. 各部点検、精密検査、分解掃除などを特別に依頼されたもの。

● 修理不能

浸（冠）水、強度の衝撃、その他で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの、および部品の手当が困難なものなどは修理できない場合もありますので、お近くの富士フイルムサービスステーションにお問い合わせください。

●修理部品の保有期間

この製品の補修用部品は、製造打ち切り後7年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。
なお、部品保有期間終了後でも修理できる場合もありますので、詳しくはご購入店かお近くの富士フイルムサービスステーションにお問い合わせください。

●修理ご依頼に際してのご注意

1. 保証規定による修理をお申し出になる場合には、必ず保証書を添えてください。
2. ご購入店や富士フイルムサービスステーションで、ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。故障の状態によっては、事故となったフィルムなどを添えてくださると修理作業の参考になります。
3. 修理箇所のご指定がないときは、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
4. 修理料金が高く見込まれる修理のときは「○○○○円以上は連絡してほしい」と金額をご指定ください。ご指定のないときは12,000円以内の料金で修理完了する場合は修理をすすめさせていただきます。
5. 修理に関係のない付属品類は、紛失などの事故を避けるため、修理品から取り外してお手もとに保管してください。
6. 修理のために製品を郵送される場合は、ご購入時の外箱などに入れてしっかり包装し、必ず書留小包でお送りください。
7. 修理期間は故障内容により多少違いますが、厳重な調整検査を行いますので、普通修理品の場合は富士フイルムサービスステーションで、お預かりしてから通常7〜10日位をご予定ください。

●海外旅行中の故障

海外旅行中に故障した場合は、海外各地の富士フイルム海外支店または各国の富士フイルム代理店をご利用ください。富士フイルム海外支店、代理店の所在地一覧表はお近くの富士フイルムサービスステーションにおたずねください。なお、海外での修理は対応できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

主な仕様

形式｜35mmレンズシャッターカメラ

画面サイズ｜24mm×36mm

使用フィルム｜135ロールフィルム

撮影枚数

36EXP	24EXP	12EXP
36枚	24枚	12枚

レンズ｜スーパーEBCフジノンレンズ　3群4枚構成　f=38mm　1：2.6　画角：59.3°

距離合わせ｜パッシブAF方式　撮影距離：0.4m～∞

マニュアルフォーカスモード切り替え可能（10点切り替え）

フォーカスロック機能付き

ファインダー｜実像式ファインダー　視野率：85%（∞時）　倍率：0.48倍

ファインダー内表示｜AEB（オートエクスポージャーブラケティング）　MF（マニュアルフォーカス）

近距離補正マーク

ファインダー近傍表示｜AFランプ（緑）＜点灯：撮影距離OK、点滅：撮影範囲外警告＞

警告ランプ（赤）＜点灯：撮影不可、点滅：露出警告＞

シャッター｜AE電子式レンズシャッター（プログラムAE、絞り優先AE）

シャッタースピード｜B、1/2秒～1/290秒（F2.6時）、～1/1000秒（F16時）

セルフタイマー｜電子式　作動時間：10秒　セルフタイマーランプ付き

露出制御｜CdS外部測光方式

連動範囲：EV4～16（ISO 100）

撮影モード｜プログラムAE　絞り優先AE

AEB／露出補正｜±0.5EV、±1.0EV選択　適正露出→アンダー→オーバー

逆光補正モード（+2.0EV）

フィルム感度	DXオートセット ISO 50～3200
フィルム装てん	イージーローディング　1コマ目自動セット
フィルム送り	逆装てん　順送式　自動巻き上げ　自動巻き戻し　最終コマ撮影後自動巻き戻し 途中巻き戻し可能（巻き戻しボタン操作による）
フィルムカウンター	液晶表示部　順算式　最終コマ巻き取り後“E”表示
ストロボ	内蔵式低輝度自動発光ストロボ　充電時間：約4秒　ガイドナンバー：11 自動発光モード／赤目軽減モード／ストロボ発光停止モード／ ストロボ強制発光モード／逆光補正モード／夜景（スローシンクロ）モード／ 夜景（スローシンクロ）ポートレートモード
液晶表示部	フィルムカウンター　ストロボモード　セルフタイマー　バルブ　バルブタイマー AEB（オートエクスポージャーブラケティング）　AEB補正量　露出補正値 MF（マニュアルフォーカス）　デート　電池容量
電源	リチウム電池CR2　1本
その他	三脚ねじ穴付き
寸法	123.0mm×63.5mm×37.0mm（突起部除く）
重量	250g（電池別）

＊仕様・性能は、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

FUJIFILM 富士写真フイルム株式会社

●本製品についてのお問い合わせは…

富士フイルムプロフェッショナル写真部	〒106-8620	東京都港区西麻布2-26-30	TEL（03）3406-2051
富士フイルムプロフェッショナル写真部		東京販売グループ	TEL（03）3406-2094
富士フイルム大阪支社	〒541-0051	大阪市中央区備後町3-5-11	TEL（06）6205-6471
富士フイルム札幌営業所	〒060-0002	札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館	TEL（011）241-7164
富士フイルム仙台営業所	〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL（022）265-2121
富士フイルム名古屋営業所	〒460-0008	名古屋市中区栄2-10-19 名古屋商工会議所ビル	TEL（052）203-5263
富士フイルム広島営業所	〒732-0816	広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター	TEL（082）256-3311
富士フイルム福岡営業所	〒812-0018	福岡市博多区住吉3-1-1	TEL（092）281-0231

●修理の受付は…

東　京：富士フイルムサービスステーション	〒105-0022	東京都港区海岸1-9-15 竹芝ビル	TEL（03）3436-1315
富士フォトサロン・東京	〒104-0061	東京都中央区銀座5-1 銀座ファイブ	TEL（03）3571-9411
大　阪：富士フイルムサービスステーション	〒541-0051	大阪市中央区備後町3-2-8 大阪長谷ビル	TEL（06）6260-0915
富士フォトサロン・大阪	〒530-0001	大阪市北区梅田1-9-20 大阪マルビル	TEL（06）6346-0222
札　幌：富士フイルムサービスステーション	〒060-0002	札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館	TEL（011）222-3973
仙　台：富士フイルムサービスステーション	〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL（022）265-2149
新　潟：富士フイルムサービスステーション	〒951-8067	新潟市本町通7番町1153 本町通ビル	TEL（025）223-7731
静　岡：富士フイルムサービスステーション	〒420-0859	静岡市栄町1-5 殖産ビル	TEL（054）255-2465
名古屋：富士フイルムサービスステーション	〒460-0008	名古屋市中区栄1-12-19	TEL（052）202-1851
金　沢：富士フイルムサービスステーション	〒920-0864	金沢市高岡町1-39 住友生命金沢高岡町ビル	TEL（076）263-3466
高　松：富士フイルムサービスステーション	〒760-0015	高松市紫雲町3-1 香西第2マンション	TEL（087）834-8355
広　島：富士フイルムサービスステーション	〒732-0816	広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター	TEL（082）256-3511
福　岡：富士フイルムサービスステーション	〒812-0018	福岡市博多区住吉3-1-1	TEL（092）281-4863
鹿児島：富士フイルムサービスステーション	〒892-0838	鹿児島市新屋敷町16 公社ビル	TEL（099）226-2515

※土曜、日曜、祝日、年末年始、夏期休暇は休業させていただきます。

●東京：富士フイルムサービスステーションは、通常の土曜日（祝日、年末年始、夏期休暇以外）は営業しております。
ただし、受け渡し業務のみとなります。

●富士フォトサロン・東京、大阪は受け渡し業務のみです。

●富士フイルム製品のお問い合わせは…

お客様コミュニケーションセンター（月曜日～金曜日　午前9：30～午後5：00）TEL（03）3406-2981

FGS-103108-Ⓝ-04